

年頭のぞいさつ

南部町長 望月 秀次郎

新年あけましておめでとつございます。

平成二十三年の新春を寿ぎご挨拶申し上げます。

町民の皆様には、思いを新たに新年をお迎える事と存じます。昨年中、町行政に対し賜りました温かなご支援ご協力に心から感謝申し上げます。

昨年を振り返りますと、中学校統合問題という大きく重い課題に取り組み、三中学校を统一到統合する事といたしました。本年四月一日から新生南部中学校として、新たな歴史の第一歩を踏み出す事になりますが、生徒の皆さんが大きな夢と希望と高い志を持ち、心身を鍛え勉学に励んで下さることを願っています。

平成二十年度から取組んでまいりました地域情報化推進事業も順調に進捗し、万沢・十島地区は一足早くこの三月一日から町が敷設した光ファイバを活用したブロードバンドが開局する運びとなりました。引き続き事業を推進してまいります。町民の皆様のご協力をお願い致します。

中部横断自動車道の吉原JCTから富沢間の建設工事、平成二十九年度の供用開始に向けて急ピッチで進められています。また、県道「身延・富士宮線」、「高瀬・福土線」の改良工事も着々と推進されています。いずれの工事、南部町発展のための道路基盤整備であります。

引き続きご協力をお願い致します。

緑の中にくっきりと姿を現した赤い南部橋も完成し、本年八月には供用開始となります。周囲の風景に溶け込んだ赤い橋は、南部町の名物になるものと確信しています。

地震や集中豪雨による被害が、国外や国内各地で発生しました。一月にはハイチでマグニチュード七・〇の地震が発生し、死者行方不明者が二〇万人に及ぶという大惨事が起こり、一月には南米チリでマグニチュード八・八の巨大地震による津波などでおおよそ八〇〇人の死者ができました。

国内では七月に西日本を中心に五〇〇ミリを超える雨量を観測し、死者十五人、行方不明者五人、負傷者十九人、家屋の全壊三十七棟、床上浸水一八四八棟、床下浸水五三六七棟という大被害を記録。台風九号による被害の大きさをから、局地激甚災害に指定された静岡県小山町、神奈川県山北町や一日の雨量が六二・三ミリを記録した鹿児島県奄美大島では、道路、電話、電線などあらゆるライフラインが寸断されました。

このような集中豪雨などによる自然災害が、いつ南部町で発生しても少しもおかしくない異常気象が頻繁に見られるようになりました。地域の力と、行政が一体となった災害に強い町づくりを進めることが急務な課題であると考えています。

明るい話題も昨年は沢山ありました。

三十三人全員が無事生還したチリのサンホセ鉱山の救出劇は、地下七〇メートルの狭い空間に耐え抜いた知恵と力は、有事の際のリーダーの人間力が如何に大切であるかを教えてくれました。彼らを助けるべく行われた地上での作戦や家族達の励ましには、日本中が拍手を贈りました。

日本が七年前に打ち上げた惑星探査機、アステロイドベルトの小惑星イトカワに接地してサンプルを採取、自身は大気圏で燃え尽きてしまっただが、奇跡的にカプセルを見事地球に帰還させた「はやぶさ」の快挙。

鈴木章さん、根岸英一さんのノーベル化学賞授賞も私たちの心を明るくしてくれました。

今年の南部町に身近な明るい話題がいつも聞こえてきますように「人あつての町、人あつての地域、人が宝」の理念の下に「住み良き日本一の町」を目指した行政運営に邁進してまいりますので、更なるご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年が南部町と町民の皆様にとりまして、希望に満ち溢れたより良い年になりますようご祈念申し上げ、新年のご挨拶いたします。